

- 大会当日までに、前日から大会終了日までの就寝前・起床時の検温と健康状態を記した書面を求める。その際、参加者が以下に示す症状に該当する場合は、参加見合わせの判断を求める。
 - 比較的軽いかぜ症状が続いている（平熱を超える発熱・咳・鼻水・咽頭痛）。
 - 息苦しさ、強いだるさなどの症状がある。
 - 嗅覚や味覚に異常がある。
 - 同居家族や身近な知人に感染または感染が疑われる方がいる。
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- 参加者に対し、大会終了2週間以内に発症があった場合は、本協会に速やかに濃厚接触者の有無等の報告を遵守させる。
- 大会では、医療従事者を救護担当として設置する。また、本協会・医療関係機関・施設関係者・開催自治体の衛生部局と連携した体制を整える。
- 参加者から提供を受けた情報（書類）は、個人情報の取扱いに十分注意しながら、競技会担当者が1ヶ月期間保存する。
- 施設館内の窓・扉類は随時開放し、外気を取り入れるための換気を行う。その際、防暑対策も行う。
- 大会会場までの移動は、「3つの密」になる手段を避けるよう啓発する。
- 大会当日は受付・競技前のアップ練習・更衣時の混雑を極力避けるための措置を講ずる。また、参加者の動線も指定する。
- 競技記録（結果）の公表は、公式掲示板で知らせるが、密にならない工夫を施す。また、必要に応じて、インターネットやスマートフォン等を活用した結果表示も行う。
- 開閉会式・表彰等の有無は、競技会に応じて判断する。表彰を実施する場合は、人との距離を十分に保つ措置を講じ行う。選手・プレゼンターは可能な限りマスクを着用するが、握手は行わない。
- 会場内の施設は、複数の利用者が触れると考えられる場所は予め消毒を行い、トイレにはハンドソープ、必要な箇所にアルコール等の消毒液を設置する。また、大会本部には、マスク・非接触型体温計アクリル板（又はビニールカーテン）・手袋等の準備を行い、適切に使用や設置を行う。

大会参加者への対応

- マスクの着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒、人と人との一定の距離（ソーシャルディスタンス）の確保を啓発する。
- トイレの利用は、蓋を閉めて汚物を流すよう指示し、石鹼やハンドソープを利用して手洗い30秒以上を励行する。手指は、持参したハンカチやハンドタオル類で拭き取る。
- トイレ内のジェット式ドライヤーや更衣室内でのドライヤー使用は、エアロゾルを発生させる恐れがあるため禁止とする。
- タオル類、ストレッチマットやトレーニング器具類の共有を禁止とする。
- 大会への参加者（観客を含む）数は、社会の感染リスクレベルを鑑みながら制限の判断を行う。必要に応じて、無観客による実施や観客席の数を減らすなどの対応をとる。また、大声での声援や会話を控えることを周知する。